

【解説】Part I に引き続いて、8月20日発売予定の新著 The Synchronicity Key に向けた、ウィルコックの凝縮された時間の中からの報告である。最後に言っているように、この短い時間の中でも、この本を補強するような資料を次々に発表するというのだから、まさに超人的である。彼の生きる時間は、彼のものであって彼のものでないことがよくわかる。

我々テレビや新聞しか見ない者には、世界の深層で何が起きているのか全くわからない。わずかにスノーデン事件が報道されたが、背後に何があるかは報道されない。それを含めて、今「陰謀団」がいかにかに追い詰められ、いかにかに狂気じみた手段を取ろうとしているかが、これを読めばわかってくる。そしてこれが、いかにかに人類史上の大事件であり、彼らの敗退が我々自身の革命（覚醒、開眼）につながっているかもわかってくる。

我々は、ウィルコックの切り開いたような観点が存在しないような、あるいは物笑いにされるような世界に長く住んでいた。「長く見失っていた親戚たちとの出会い」(p.8)とか「地球規模の治癒」(p.9)などと言われていることがどういうことなのか、想像もできない（させない）ような教育を受けてきた。それが今終わろうとしているということである。

悪夢はもうすぐ終わる：Part II

David Wilcock

August 8, 2013

「現実」という幻想は崩壊しつつある——自分たちの世界観がウソの上に築かれているということに一般大衆が気付くにつれて。監視の背後にある「陰謀団」の暴露と敗北は、ほんの始まりにすぎない。

何を彼らはそれほど怖れているのか？ 点をつなぎ合わせてみれば、それがわかってくる。

見出しは日毎にますます露骨なものになっていく——予想通り

大規模な政府による監視の証拠が、今や誰にとっても否定できない、露骨なものになっている——頭をしっかりと砂に埋めている人々にとってさえ。

これは次を読んでいただければわかってくるであろう。

私は自分が公開した予言——インサイダーのリーク、広範囲な調査研究、夢やシンクロシティに導かれた予言が、今実現しつつあるのを目のあたりに見て、ただ謙虚と畏怖の念

に打たれている。

私は、多くの人々が今初めて知るようになった不快な事実を、何年も前から考え続けてきた。

これらの密かな策略や隠蔽が成功するのは、それらが隠されている間だけであることを、私は知っている。

アリエル・カストロの話を考えてみよう

例の Ariel Castro の話は、私の考えるところでは、一つの「ジオ-シンクロニシティ」(geosynchronicity) ——人類すべてにとって象徴的な意味をもつ出来事——である。

我々はそこに、はるかにより大きい問題の——そしてそれをどう解決すべきかの——小規模な、わかり易いドラマタイゼーション (劇化) を見ている、と私は考えている。

この男が 3 人の女性と一人の子供を、あれだけ長期間、鎖につなぎ自分の家に幽閉していたとは、どうてい考えられないことのようにだ。

にもかかわらず、ある日彼の警戒がわずかにゆるみ、そのすきに捕らわれていた一人が逃げ出して、大声で助けを求めた。

あるごく普通の人が、勇気を奮い起してその家に突入し、女たちを解放し警察を呼んだとき、彼は英雄になった。

聖書的な意味が含まれる

カストロは、誰も生きることができない「千年間の禁錮」という、非常に聖書的な刑を宣告された。 (リンク、以下、下線はすべてリンク)

黙示録 20 : 7 で、サタンは千年の「幽閉」を宣告されている——ちょうど我々のこの「終末」がその時期に当たる。

世間がこれを知ったとき、カストロの家がすでに 24 時間前に破壊されていたことがわかって、ひどく怖れおののいた。

私はこの事件のより大きなシンクロニシティについてだけでも、一つの論文を書くことができるし、実際そうするかもしれない。

私は、シンクロニシティは現実の事実であり、グローバルなレベルで起こることがあると信じている。私は *The Synchronicity Key* に、今年起こるものも含めて、そのいくつかの例を書きとどめている。

カストロの暴露、逮捕と投獄、自分は「普通の人間」だという彼のショッキングな弁解、そして彼の家の完全な破壊、すべてこうしたことは非常に予言的なことに思える。

非常に現実的な意味で、カストロの宣告は、それよりはるかに大きな似た物語に、我々すべてを備えさせる、ウォームアップの決まり事のように思える——これはすでに聞いたことがあるというような。

現在、我々が目にしている諸々の出来事は、ある巨大な腐敗した体制が、いま危機的な大きさに達していることを示すものである。

直観的データを無視することはできない

政府の諸機関は、長い間、現実の情報を得るために、遠隔視や、他の直観的なプロトコル（手順）を用いてきた。

毎朝、書きとめるのに何ページも要することのある、夢の記録の習慣を 21 年も続けてきたので、私はたいてい、それらの意味を容易く解読することができる。

夢は、私の見出した断然、最も正確で確実な、直観的情報を手に入れる方法である。

夢は覚えていることも、いないこともある。ひとたび練習や繰り返しによって、その言語を習得するならば、夢はかなり理解しやすいものになる。

疑う人々はただ笑い飛ばすだろう——それが現実には有効であるという幅広い科学的証拠を無視して。私は *The Source Field Investigations* で、その多くを詳述している。

シンクロニシティ（意味のある偶然の一致）もまた、さまざまなピースがどのように合わさるのかを明らかにするのに、非常に役立つことがある。

この記事の Part 1 で私は、2羽の秃鷲が鉤爪を互いに食いこませて、空港の舗装路に墜落してきたというような、他の例を説明した。

「陰謀団」を表す一つの顕著な象徴は、双頭の鷲であり、この象徴には含まれた意味の多重な層がある。

信頼せよ…しかし確かめよ

「陰謀団」の研究には嘘や混乱や欺瞞が付きまとうために、真実と感じられるものを決定するときには、我々一人ひとりが自分の内なる核を信頼する必要がある。

ひとたびその繋がりを確立したら、それがどのように役立つにせよ、鍵は「信頼せよ…しかし確かめよ」ということである。できるだけ多くの事実を用いて、あなたのデータを確証せよ。

私がこのウェブサイトに乗せた予言は、インサイダーからのものと直観からのものがあるが、それらは完全に特定の時間で時間を正確に示すものだった。

私が4月27日に“The Storm of Disclosure is About to Hit”を書いて以来起こった、目を剥くような事件の量だけでも、圧倒されるほどである。

夢そのものは多くの中の一つであり、私が語るその内容は、非常にはっきりして理解しやすいはずだ。

今あなたが読んでおられる記事の Part 1 で私が公表した、続きの夢についても同じことが言える。

これは私が新しい本で——それが現実にかかる前に——これらすべてが起ころうとしていると予言して、大博打を打ったことを考えれば、なおさらその価値があったと言える。

ロシアが「同盟」の先頭を切っている

ほんの一つの例だが、多数のインサイダーが私に、ロシアは“New World Order”陰謀団を打ち負かす工作をしていると語ってくれた。

この計画は、はるか以前の1970年代のPeter David Beterのディスクロージャーにまで

遡ることができるが、ピーターは私に、ロシア人たちは1700年代以来、このことに取りかかっていると話してくれた。

警告者のEd Snowdenは早々とロシアに落ち着くことになった。そして、私の予想した通り、彼の滞留が永久的なものとなるのは時間の問題にすぎなかった。

ジャーナリストのGlenn Greenwaldは最近、スノーデンから15,000件以上のトップシークレット文書を手に入れたことを認めた――

www.presstv.ir/detail/2013/08/06/317541/us-reporter-has-15000-snowden-files/

「正確に数えたわけではないが、彼は私に15,000から20,000の文書をくれました。非常に完全な、しかも非常に長いものです」と、火曜日、このブラジルを本拠とするジャーナリストは語った。

スノーデンは、NSA（米国家安全保障局）のグローバルな監視プログラムに関する文書を暴露したが、これには、ラテン・アメリカ諸国のほかに、アメリカのヨーロッパ同盟国、特にドイツに対するスパイ行為も含まれていた。

「我々が公表したのは、ほんの序の口です。」

「同盟」は殆どの方が理解しているより、はるかに大きく、かつ真剣である

スノーデンの文書は、はるかにより大きな積極行動の、ちっぽけな一つの側面にすぎない。

この同盟は、ほとんどの人々が理解しているよりも、はるかに広大で、より組織化され、より大きな意味をもっている。

これまでに見てきたものは、ほんの始まりにすぎない。

これほどに敏感で、これほど高度に危険な作戦行動であってみれば、そのプロセスが苦痛なほど緩慢で、長く引き伸ばされているようにも見えるのも致し方ない。

この話の後を追っている多くの人々は、士気がすでに衰え、これではあまりにも長くかかり過ぎで、だからこれは本当の話ではないのだろう、と感じ始めている。

どんなグループであろうと、人間の歴史で、最大の、最も恐ろしく組織された犯罪集団を現実に崩壊させるなんて、想像すらできないと彼らは言うであろう。

にもかかわらず、それが我々の目の前で起こっている——まさに今。

これこそ、現代歴史の中で最も意味深い出来事だと断言することができる。

美しい絵が見えてくるのではない

日毎に、“真理”の建造物のひび割れが現れつつある。体制そのものはまだ崩壊していない。しかし今非常に急速に、人々は考える力を取り戻しつつある。

私は単純な事実を指摘することによって、必ずしも私の読者に気に入られるわけではない——否定は、我々が真理に直面することを避けさせる非常に強い防衛機構なのだ。

しかし、もし私に、このことを通じてポジティブな惑星的解決に至る、非常に明瞭な道筋が見えていないのだとしたら、私は決して、次のような証明可能な事実に注意を喚起することはないだろう。

カストロの話と、我々が直面しているより大きな現実の間には、ある種の繋がりがあある。しかしより大きな現実には、はるかにより複雑で、はるかにより恐ろしい——

- * 精神異常の者たちが不気味なカルト集団を形成し、巨大な世界的権力を手に入れた。
- * 彼らの計画がめったに暴露されることがないように、いくつかの秘密結社が用いられた。
- * “新世界秩序”を目指す、地球規模の独裁政治のための彼らの計画は、少なくとも250年前に表面に現れた。
- * 彼らは、ほとんどの人々が理解しているよりも、はるかにうまく彼らの目標を達成した。
- * この「陰謀団」は、今でも、我々の金融システムに対する驚くべき支配力を握っている。
- * トップレベルの陰謀団のメンバーは、人類が苦しめば苦しむほど、信じられないほどの利益を掻き込んでいる。
- * その金融セクターは、彼らの役割として、西洋の諸政府を支配するために、殺人を含む隠れた力を用いてきた。
- * これら「過去の権力」(Powers that Were) は、ほとんどの人々が悪と呼ぶであろう

ものを、積極的に信じかつ実践している。

* 賄賂、ゆすり、拷問、殺しが、反対する者たちを脅迫し、黙らせるために用いられる。

* この陰謀団を統率する人たちは、人間の生命を、無価値で消費可能なものと見ている。

* 一般大衆を常に恐怖の中におくために、戦争やテロリズムが意図的に創り出される。

* メディアは政府のために真理を隠し続ける。スノーデンは英雄でなく、“反逆者”と呼ばれる。

* この陰謀団は、自分たちが暴かれ破壊されるのを避けるために、監視を行っている。

現在、暴露されつつあることはネガティブなことのように見えるかもしれないが、私は信じられないくらい純粋に興奮している。

ただ、私はもう少し事が速く動いてほしいと思っている。

しかし、事がスローダウンしかけたように思えた途端、“バン！”とばかり、別の大きな話が飛び出すのだ。

本に書き込まれた予言

1月から4月の終わりにかけて、私は、存在の最大のミステリーへの33年の探究を締めくくる本を完成させた。

The Source Field Investigations が、その続編としてもっと大きなビジョンを確立するためのセットアップにすぎないことを私が理解したのは、2012年12月が過ぎてからだだった。

私は、2012年という転換期の間、事態がどんなに速やかに変わるかを、残念ながら判断できなかった。しかしそれが25,920年サイクルの終わりであることを考えれば、6カ月の誤りは完全に許容範囲である。

私はこの新しい本を書くに当たって大胆な賭けをした——2013年の4月の時点で、8月20日のこの本の今差し迫っているリリース前に、非常に大きな変化が起こるだろうという予言をすることによって。

今、私の手元には、その著者用コピーが一冊ある。次に——強調して——抜き書きするの

は、その 106 頁からの一節である。

真理はいま非常に大きく広がったので、「兄」の神話はもう維持することができない。

ひとたび数というものに存在する力を我々が理解するならば、**ネガティブなエリート集団の活動が隠れたまま存在できる可能な方法は全くない**——たとえ主流メディアが怖れてこれを論じなくても。

私は、私が今これを書いている 2013 年 4 月の時点で、**転換の頂点 (tipping point) にきわめて近い所に私たちがいると感じている。**

ひとたびこの真理を怖れずに自分で学ぶならば、私たちは——問題を永遠に引きずることなく——直接その解決の一部になることができる。

予言のもう一つの例

さらにもう一つ、245 頁からの抜き書きを示そう。ここで私はこの本で説明されているある専門語を用いて、この予言をもっと直接的に述べている——

彼らを、「イルミナティ」「ニュー・ワールド・オーダー」「陰謀団」「陰のエリート」「悪い奴ら」など、どう呼んでもよいが、この惑星的エリート集団は、間違いなく我々自身のエゴが、お化け屋敷の歪んだ鏡に映った、世界的規模の投影である。

この集団的な悪夢が現に終わりに近づこうとしている兆候の数は、ますます増えており、私は私のウェブサイトで一貫してそれを追っている。

この“竜”が守っている「不滅の妙薬」は、ほとんどの人々が想像できるよりも、はるかに意味深く、かつ幻想的なものであって、世界に巨大な衝撃を与えることになるだろう。

そこには、我々が宇宙の孤独な存在ではないという、十分に完全な知識が含まれる。そして我々が長く見失っていた親戚たちとの出会いが、地球規模のカーテン・コールと共に始まるだろう。

いま見せられつつある、信じられないほどのペースの出来事と、私がディスクロージャーと陰謀団の敗退について見続けている、信じがたいほどの数の予言的な夢を考え

てみるならば、私がこの原稿を書き終えた時と、この本が出版される時（8/20）の間に、非常に重要ないくつかの展開がすでに起こっているかもしれない。

世界規模の治癒のプロセス

私はもう長年にわたって、より深い真理が一般に知られるようになる前に、我々はある世界規模の治癒のプロセスを通過しなければならない、と言い続けてきた。

私は *The Synchronicity Key* を書き終えて初めて、地球的なネメシス（復讐の女神、抗しえない敵）の敗退が、完全な神の計画の一部であることを、科学的に、説明できるようになった。

この計画は、これらのいたずら（shenanigans）が始まった時より、はるか以前に書かれたものである。それは、生命がこの地上で花開くよりはるかに前に、すでに存在した。

次は、2日前、2013年8月5日の The Huffington Post の一面に載ったものである——



悪者の一味がアメリカの情報を横流し

ドラッグ業者を狙って！…「そんな話は聞いたこともないぜ」…
「ひどい話だ」…フラッシュバック：NSAが“アメリカ人のプライバシーの保護が実際よりも遥かに強力”であるかのように言ったとして攻撃される…
他の部局はNSAのデータを擁護

最大で最悪の新しい話——少なくともこの時点で——は、憲法に反する監視が、アメリカ市民に対し、マリファナのようなドラッグを取引する者たちを捕えるためとして、行われていることである。

いずれにせよ不法行為なのだから、彼らを狙うのはOKなのか？

私はドラッグを9月22日に断ってから21年目を迎えるが、そこにはマリファナも含まれていた。どんなに金を積まれても、もう一度それをやる気にはならない。

簡単に言うと、麻薬は脳のセロトニンのレベルを攪乱する——そして薬物なしに幸福を感じることが、ますます困難になっていく。

私は、それを吸わないとみじめに感ずるところにまで達した。私は絶えず物を忘れ、恐怖を感じ、退屈で、注意散漫で疲労を感じていた。たった今のことを覚えていなかった。

私は二度とそういう感じを味わいたくなく、その必要もない。私はクリーンの状態でいたい。それが私の道であり選択である——そうすることで幸福を感じず。

私自身の個人的選択とは関係なく、20のアメリカの州が現在、マリファナを、少なくとも医療目的として合法化しているのは事実だ。

緑内障とか食欲の刺激のような特定のケースでは、医薬品としてのマリファナは、その患者にとっては最も効果的な手っ取り早い手段である。

大麻もまた、すぐれた食用穀物であり、THCなしに栽培ができ、立派な衣服となり、樹木よりも早く、より少ない土地で、紙を作ることができる。

そのアイデア全体が不快である

投票による大衆の態度が、マリファナを犯罪として扱わない方向へ傾いているときに、マリファナ業者が不法な監視によってスパイされ摘発されると考えると、なおさらそれは不快なものになる。

NSAのようなグループは、声のデータを盗聴器からとらえ、アップルのSiriのようなものを使ってこれを書き写し、それをDEA（麻薬取締局）や他の部局に送って調べさせる。

覚えておいてほしいことは、スマートフォンの内部の技術はすでに、あなたがそれに向かってしゃべれば非常に正確な書き写しができるほど、十分に進んでいることである。

そこで、一連のニセモノの証拠が一定の部局によって作られ、これが違憲の詐欺的行動でなく、合法的な逮捕であるかのように見せかけることができる。

このような麻薬手入れの対象になるような人々が、陰謀団にとって困る問題をも引き起こす——暴露資料をオンラインで発表することによって——可能性は十分にあり得る。

政府批判者が IRS に狙われていることはすでに分かっている

5月半ばに、この新しいディスクロージャーの波を始動させた最初の2つの話の一つは、IRS（アメリカ内国歳入庁）が、Tea Party（反オバマ）支持者や、会計検査を曖昧にしたことに対する政府批判者を、意図的に狙っていたという事実である。

次の Daily Kos 紙の記事は 2013 年 5 月 13 日——私が “The Storm of Disclosure is About to Hit” で、ディスクロージャーの嵐が近付いていることを予言した 16 日後——のものである。

IRS が会計検査で政府を批判する者たちを狙う

www.dailykos.com/story/2013/05/13/1208749/-draft-audit-shows-IRS-non-profit-scrutiny-extended-beyond-tea-party-and-patriot-keywords

過去 2 年間のいろんな時点で、「アメリカ内国歳入庁」の職員たちは、「ティー・パーティー」グループとか「愛国党」を名乗るグループの人たちだけでなく、政府を批判して、合衆国憲法を国民に教育しようとする人々を、選び出して調査している。これは、ある会計検査部局の監察官によって取られた記録文書によるものだ。

この記録文書は、検査内容の知識をもつ国会補佐官からワシントン・ポストへ渡ったものだが、これによると、税金免除措置への志願者の評定を担当する IRS のオフィスが、「この国の運営の仕方を批判する」文書を作ったグループや、「憲法と基本的人権について」アメリカ国民を教育することに関わっている人々に、焦点を当てる決定をしている。

麻薬取引人でっちあげに関する「ハフィントン・ポスト」からの抜き書き

この見出しについてクリックして読むことのできる、汚い内容を暴露する記事の概要を次に示そう——

麻薬取締局の特殊作戦は、アメリカ国民に対する監視を隠している

www.huffingtonpost.com/2013/08/05/dea-surveillance-cover-up_n_3706207.html

ワシントン、8月5日（ロイター）——麻薬取締局のある秘密の一部が、諜報活動、盗聴、密告者、電話記録の巨大データベースからの情報を、全国の権威筋に集中して送り続け、アメリカ国民の犯罪調査を援助するように要請している。

このようなケースは、めったに国家安全問題に関わることはないのだが、ロイターの論評する文書を見ると、法執行の係官たちが、実のところ、どうしてこのような調査が始まったのかを——弁護士だけでなく時には検察官や裁判官にも——隠すように指令されていることが分かる。

日付のないこれらの文書は、連邦の諸官庁が、調査の跡を「再創造」して、この情報がどこから発したのかを効果的に隠蔽するよう、訓練されていることを示している。

これは、ある専門家たちが言っているように、公平な裁判を要求する被告の憲法上の権利を、侵害するやり方である。

これはひどい話である——そして今我々にわかっていることは、IRSが2005年と2006年には、オンラインでそのやり方を公然と教えているが、2007年にはそれを削除したことである。

その同じ日に、他のどんなことがニュースに上がったか注目せよ

次は、最大の右翼ウェブサイトである Drudge Report のトップを飾った見出しである——その同じ日に。

PLANNED ATTACK 'BIG,' 'STRATEGICALLY SIGNIFICANT'...
Authorities Boost Security Inside Homeland...
SENATOR: 'Most serious threat I've seen in a number of years'...
'Chatter' beyond anything heard since before 9/11...
al Qaeda 'on steroids' since Benghazi attack...
Kristoi: Year ago Obama said al-Qaida on run and now WE are on run...



EMBASSIES TO REMAIN CLOSED FOR WEEK

DRUDGE REPORT

各大使館が一週間閉鎖の予定

突然「アルカーイダ」が引っ張り出されて、緊急の、全能の、全脅迫的な、スーパー・ヴィラン（悪者）に再び祭り上げられた。なんと便利なこと！

なぜ、悪者の反米グループが、「9.11 より大きな」攻撃を計画して、すべての中東の大使館を強制して閉鎖させるのか——大規模監視の背後にある醜さがついに暴露されつつあるまさにその時に？

大きな災難があれば、民衆の注意を完全にそらせて、「偉大なサタン」の内部の真の問題に取り組むことを忘れさせることができるのは、よくできる小学生にも理解できることではないか？

なぜ彼らは一歩下がって、最初に何が起こるかを考えようとししないのだろうか——陰謀団が権力の座にいられるもう少しの時間と金を稼げるかもしれない、大きな攻撃を試みる前に？

最新のテロ脅迫に関する T B R ニュース

TBRNews.org は、私が初めてそれを知った、少なくとも 1999 年以来、強力なインサイド情報をリリースし続けている。

この最新の脅迫と言われるものについて、彼らはこう言っている——

ニセのテロ警告についての T B R 報道

www.tbrnews.org/?p=748

ワシントンDC、2013年8月5日——中東の「アメリカ大使館建物へのイスラムの爆弾脅迫」についての大いに面白い話が出てきたのは、十分に予言できたことだった。

こうした素晴らしい暴露は、NSAの「驚くべき非常に重要な」仕事——何の妨げもなしに達成されるに違いない仕事——の手柄によるものだ。

これは我々が毎日のように、政府に統制されたブログや、捕らわれ人のニューヨーク・タイムズのような、政府（つまりCIA）と結んだ新聞紙上に見ている類いの、下手な作り話である。

もしCIAがある話を消したければ、ニューヨーク・タイムズが消してくれる。もしCIAがある話を植え付けたければ、ニューヨーク・タイムズがそれを一番目立つ欄に印刷してくれる。

インターネットは完全に統制することが不可能だろうから、政府の諸機関が、自分たちの乗りかかったウソや、歪曲や、牛の糞を、彼らの言うことをもはや全く信じない一般国民に押し付けることは、非常に難しくなっている。

NYタイムズが、この脅迫のタイミングは「注意をそらすのに役立つ」と認める

明らかに、NYタイムズは、CIAの「捕らわれ人」であることに飽きている。これは、事態がどのように変わってきたかを如実に示す、もう一つの度肝を抜く新しい展開である。

TBRNews が、NYタイムズの姿勢に対するこのような辱めの非難を行う前に、すでに彼らは、明らかな反逆の非常に劇的なしるしを見せていた。

Prisonplanet.com のアレックス・ジョーンズは、LibertyBlitzkrieg.com の Michael Krieger による、彼らが言ったことを明証する記事へのリンクを設け、その写真を示している。

クリーガーは、あるNYタイムズの記事に、このテロ脅迫が陰謀団にとっていかに「役立つ」かを完全に認める、顕著に挑発的な文章を発見した——

NYタイムズが認める：アルカーイダのテロ脅迫は、NSA騒動から「注意をそらす」のに用いられている

www.libertyblitzkrieg.com/2013/08/05/ny-times-admits-al-qaeda-terror-threat-used-to-divert-attention-from-nsa-uproar/

今でもちゃんと読むことができる

ここに実際のNYタイムズ記事へのリンクがあり、この挑発の文章は、これを書いている時点でまだ見えている——

アルカーイダのメッセージがアメリカのテロ警告を引き出す

www.nytimes.com/2013/08/03/world/middleeast/qaeda-messages-prompt-us-terror-warning.html?pagewanted=1&r=1

アナリストや国会職員のある人々は、金曜日、いまテロリストの脅迫を強調することは、NSAのデータ収集計画をめぐる騒動から注意をそらす、よい方法であること、また、横取り情報がテロ計画疑惑を明らかにしたというのであれば、なおさらよいことだ、と示唆した。

記事の写真版——万ーに備えて

その通りである。匿名の「アナリストや国会職員たち」が公然と、NSA監視から人々の注意をそらすには、強力なテロリスト脅迫が、彼らには必要だと言っているのだ。

万ー、誰か個人またはグループが、NYタイムズからこのパラグラフを「消失させる」場合に備えて、8月7日に私がこれを書いているときのままの、この記事の写真版をここに示しておこう——

Some analysts and Congressional officials suggested Friday that emphasizing a terrorist threat now was a good way to divert attention from the uproar over the N.S.A.'s data-collection programs, and that if it showed the intercepts had uncovered a possible plot, even better.

1 | 2 [NEXT PAGE »](#)

A version of this article appeared in print on August 3, 2013, on page A1 of the New York edition with the headline: Qaeda Messages Prompt U.S. Terror Warning.

[f](#) [t](#) [+](#) [SAVE](#) [E-MAIL](#) [SHARE](#)

Try unlimited access to NYTimes.com for just 99¢. [SEE OPTIONS »](#)

これらの「アナリストや国会職員たち」が、例によって完全な匿名のヴェールによって保護されていることに注目されたい。

これは決して偶然ではない。「統制されたメディア」でさえ圧政に対して立ち上がっているのだ。

かつてのニュルンベルク裁判で、「私は命令に従っただけです」と抗弁した兵士たちも、彼らの犯罪に対する起訴を免れはしなかった。

時とともにますます、統制メディア内部に巣食うようなインサイダー・グループが、「陰謀団」の終わりが近いことを見て取っているように見える。

今、問題は、どちらの群衆を彼らはより怖れるかである——陰謀団に雇われた殺し屋たちか、それとも真実に向かって立ち上がる群衆か？

彼らは我々を怖れている

ますます明らかになってきたのは、たった一つの権力構造がこの監視を統率していること、そしてある理由のために、これらのテロ脅威を宣伝していることである。

もし彼らが我々を怖れているのでなければ、これほどの時間とエネルギーを、我々を監視することに費やしはしないだろう。

彼らは何をそれほど怖れるのだろうか？

いずれ時間の経過につれて、このことについて言わねばならぬ多くのことがある。今のところ私は、「砂漠のコンタクト」——今週末、Joshua Tree で私が話す予定になっている大

きなUFO会議——に向けて出発しようとしている。

スピーカーには、George Noory, Steven Greer, Jim Marrs, Graham Hancock, Giorgio Tsoukalos, William Henry, Michael Tellinger, Michael Cremo、その他多くの人々が予定されている。

新しいビデオが出る予定

私は今、これらの新しい展開にもっと効果的に歩調を合わせ、関心のある大勢の方々にこれをリリースできるように、急きょ、ビデオ編集と動画を学びつつある。

読者はすでに、私が毎月曜日、Gaiam TVの *Wisdom Teachings* という番組で発表している強力な情報の、新しい半時間分をご覧になることができる。

私はまた、スタッフの増加とともに、いま私が享受しているこの新しい率先権のおかげで、近いうちにもっと多くの無料ビデオをリリースすることになっている。

実は、この新しい本のリリース前に完成させる予定の、おそらく3時間以上かかる、膨大な新しい“ダウンロード”を、いま私たちは制作中である！

グレアム・ハンコックが、Eブックで“War God”を提供

「砂漠のコンタクト」のメイン・スピーカーの一人、Graham Hancock が、歴史でもあり幻想物語でもある——そして非常に面白いことを約束する——新しい小説を発表した。

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=LL55JK1eYA4

グレアムのこの新しい本は、<http://amzn.to/15sPWRj> でダウンロードすることができる。

まだまだたくさんあります、どうぞご期待を！

本のリリースまでには、いつでも大量の活動が伴う——そして読者がここで見ておられるのは、私が新しい本を補強するために月内に発表する予定の、少なくとも3つか4つの重要な事柄の1つにすぎない。

例えば、私は3つのラジオ番組を抱えていて、その一つは、8月19日、この本が出ると同

時に Coast to Coast でジョージ・ヌアリーと行うフル・ナイト番組である。

この本が主流の意識にまで達するためには、そして我々の自由への旅を加速させるためには、読者の方々の支援がどうしても必要です。

私は皆さま方が、これらの高貴な大義のために、飛び込んで貢献して下さることに心から感謝を申し上げます。それだけの価値は必ずあると私は確信しています。そうでなければ、私はここに私の名を記したりはしなかったでしょう！